

2010.4.2 「参院選必勝の為の議論と若林問題について」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

昨日と今日、朝から自民党の本部で参議院選挙必勝に向けて、全議員の懇談会がありました。昨日は今後の党のあり方、今日は政策面についてでした。私は今日、政策面で発言をしてきました。その内容は三点あります。

一点目は、今、民主党政権で非常にでたらめな政策が次々行われているということです。子ども手当と高校無償化は、財源が無いにもかかわらずどんどんばらまきを行うという大変な問題であります。しかし、それ以上に、永住外国人に対する参政権付与問題、夫婦別姓問題など、日本の家族や地域社会を根底から破壊してしまうようなとんでもない法案を民主党は提出する準備をしています。参議院選挙に勝つためには、ネガティブマニフェストと申しましょうか、自民党は絶対こういうことは許さない、その姿勢を有権者にアピールすることが必要だと思うのです。

二点目は、郵政の民営化に対して、亀井大臣が訂正の提案をされていることです。これについては、また次回にでももう少し詳しく述べたいと持っています。しかし、私のような郵政民営化に対して懐疑的に思っている者ですら、亀井大臣の提案は飲めません。なぜなら、非常にでたらめが多いからです。同時に、自民党の中でも郵政の民営化があまりにも聖域になって、構造改革やそうした政策についての根本的な総括というものができていないということが非常に大きな問題であると前々から私は発言しておりました。今回は是非とも、構造改革などについて根本的な総括をまずして頂きたいと思っております。

そして三点目に申し上げたいのは、民主党が普天間問題、核密約問題等で、いろんなことを発言しておりますけれども、もとはといえば、普天間問題も核密約問題も、日本がアメリカに占領されていた時代の仕組みが継続しているところから出てきている問題だということです。当然矛盾点も多くあるのですが、自民党が与党であったため、占領政策をそのまま引き継いでいかなければならなかったという現実もあったわけです。しかし今、せっかく野党になり、民主党自身もこの問題の矛盾点を指摘するようになったわけですから、我々はこれを避けることなく、本当に自分達の国を自分達で守るということをきっちりと国民に説明していかなければならないのではないかと思います。特に、将来中国が肥大化し、アメリカの国力が衰えてくると、今までのような安全保障の仕組みだけでは持ちこたえられなくなるのが現実だと思うのです。従いまして、もう少し時間がかかり長期的になるでしょうが、安全保障、そして、憲法もその一つであります。戦後の占領中で行われた様々な問題、こうしたことをしっかり自民党が避けることなく議論する必要があります。私は今回この三点を提案して参りました。

そして、今日は我々の先輩の若林正俊参議院議員が青木参議院議員の議席のボタンを勝手に押して投票していたという事実が判明しました。非常識な話であります。国民に選んで頂いた選良として投票権を行使するのは最大の職責であります。これがこのような形で使われたわけです。辞職はやむを得ないと思います。しかし、この問題に対して、私達は直ちに若林氏に辞職をして頂きましたが、思い返してみますと、民主党の議員は様々な刑事事件、

逮捕されるような事件も起こしておきながら、党内では一切お咎めが無く、辞職もしないというのはどういうことなのでしょう。自民党と民主党の体質の違いをまざまざと実感した次第であります。

いずれに致しましても、これからまた様々な議論が出てきますが、皆様がたに伝えて行きたいと思っております。ご静聴ありがとうございました。